宮城へ（東京ワンハンドレッドライオンズクラブ）

ライオン阿部かな子奮闘記　（ライオン歴２年）

１）3 月 11 日　震災発生

330-A 地区主催の一大イベント、フォーラム＆チャリティコンサート当日。

夜のイベントを前に池袋西口公園で野外イベントが行われていた最中に地震は起こりました。

東京でも震度５強を記録し、大地が激しく揺れ、ビルが軋みました。

池袋西口公園は災害時の避難所に指定されており、非難する人々が続々と集まって来つつありました。

ライオンズクラブのイベント中だったために、野外ステージにはスピーカー、公園内にはイベント用のテントが 6 張張られていました。

丁度司会の任にあたっていた阿部かな子 L. は、巣鴨ＬＣ所属の中村安次 L とともにマイクを取り、刻々と入ってくる最新情報と、余震のたびにざわめく避難してきた人々に落ち着くよう呼びかけました。

この日のイベントは中止になりましたが、ライオンズクラブはテントに病人や体の弱い方々を収容し、また重病者を病院に搬送し、情報インフラとしての役割を果たすなど、災害対策の初動部分で貢献したのです。

２）３月２５日　宮城へ

東日本大震災の発生を受け、急遽東京ワンハンドレッドライオンズクラブ緊急対策委員長に就任した阿部かな子 L. は、仙台の 332-C 地区元ガバナーからの要請に応え、支援物資を集めようと呼び掛けました。メンバーからの物資を、自らの会社の一室を開放し集積所に充てて募集したところ、３日間という短い日数の中で、赤ちゃん用品、衛生用品、女性用下着など、生活物資を中心としたメンバーの気持ちが多数集まりました。その数、段ボール約５０箱！！

この頃、集積所から被災地への運搬が困難でなかなか物資が被災地に届かないとの報道がありましたが、330-C をはじめとするライオンズクラブの仲間たちは被災地に直接物資を届ける手はずを整えて待ってくれていると言います。

予定では宅配で集積所へ届けるはずでしたが、実際に業者に問い合わせると、いつ届くかわからない、保障のもできないとの答え。また、宅配料金も割引がなく、予想を上回る物資の量が集まったため相当かさむことが分かりました。

この状況の中、阿部 L. は東京ワンハンドレッドライオンズクラブのメンバーが集めてくれた物資を、少しでも早く東北へ届けたいという一心で、直接トラックで運搬することを決意したのです。

まずは車の手配。トラックのレンタカーが軒並み予約済みになっている中、何件目かの電話でやっと２ｔの平積みトラックを確保。

次の問題は燃料。トラックの燃料、軽油を満タンにするのはもちろんのこと、現地での二次災害をさけるために、ある程度の量を自ら持ち込み確保しておかなければなりません。安全な容器があれば近くのガソリンスタンドで買えることは分かりましたが、ガソリン缶や軽油タンクを探して何軒もホームセンターや大規模スーパー、ガソリンスタンドを捜し歩いても、どこに行っても品切れになっていました。

「帰りの燃料を確保しなければ、二次災害となり、かえって被災地に迷惑をかける・・・」

しかし、どこに問い合わせても容器がありません。一時は運搬をあきらめかけましたが、そんな時クラブメンバーの中に自動車ディーラーがいることを思い出し、連絡を取ると会社に近いディーラーに連絡を取って、貸してくれることになりました。

「困ったとき、大抵のことはライオンズの中で何とかなる」と仰っていた先輩方の言葉を思い出し、確かにその通りだと実感した瞬間でした。

３月２５日出発の日、手伝いに来てくれたメンバーの力を借りながらどんどんトラックに物資を積み込みます。燃料の軽油も購入して荷物と一緒に積み込みます。

車の前には「支援物資　塩竈」の文字、そしてライオンズのエンブレムを置きました

目的地は被害の大きい塩竈。

コースは、前日に東北自動車道が全線開通したこと、そして福島第一原発からの距離が一倍近い地点でも３０Km 以上あることを確認し、最短距離の東北道を選択しました。

レンタカーと一緒に借りたシートを荷物にかけようとすると、シートについているはずのゴムの本数がまったく足りず、仕方なく荷台の中に巻き込む形で固定しました。

午前中着で届いた荷物を待ったことと、積み込みに意外と手間取ったことなどで、この時点で 15 時を回ってしまいました。

運転を買って出てくれたメンバーと二人で、交代で運転することにし、出発。

首都高速芝浦入口から高速に乗り、一路塩竈へ。

この時、「支援物資」の文字を見た高速入口の係員は、通行料を徴収しませんでした。以降往復の道のり全てで通行料が徴収されなかったことには驚きました。

この緊急時、すべての人が被災地のことを考え、便宜を図ってくれているのだと思うと胸が熱くなる思いがしました。

首都高速、東北道ともに車は少なく、始めは順調に向かっていました。東北道に入ってすぐの蓮田 SA で 1/4 ほど消費した燃料を補給。また、シートの状態を度々確認しなければならず、何度も SA に寄ったことにより、さらに時間的ロスが出てしまいました。

やがて日が暮れて福島県内に入ったころ・・・「雪！」パラパラと降り出した雪が、あっという間に本格的な降りに変わりました。

作業車が本線上に凍結防止剤を撒いていきます。５０km/h 制限となり、スピードを落とします。

外気の急激な冷えに空調がついて行けずフロントグラスが曇り、もともと東北道は街灯が少なく暗いので、本線上のラインもほとんど見えなくなってしまいました。

先行する車のテールランプを頼りに、緊張して運転していると、「ドンドーン」と大きな衝撃を受けていきなりハンドルを取られました。

暗くて良く見えませんでしたが、大きな段差がいくつもあります。罹災した高速の本線がきちんと修復しきれていないのかもしれません。しっかりとハンドルを両手で握りなおしますが、またすぐに衝撃が来てハンドルを取られそうになります。

ハンドルにしがみつくようにしての運転。相変わらず雪は激しく、路側帯にはすでに積もり始めています。雪、段差、速度制限で思うようにペースが上がりません。

東京を出てから約５時間、宮城県に入る直前、国見 SA で２度目の給油。ずっと一列に給油の車が並んでいます。1 時間以上並ぶだろうと覚悟しましたが、やがて係員がやって来ました。

「この車は給油口が右なので、あちらの列に進んで下さい」

見ると、前方では給油口の位置別に並んでおり給油口が右の車列はずいぶんと短い。ラッキー！３０分ほどで給油完了、塩竈に向かおうとしたその時、道中何度か電話で連絡を取り合っていた、東京ワンハンドレッドライオンズクラブの先輩、長井隆充L.より電話が入りました。

この雪、そしてこの時間から塩竈は無理。仙台の332-C元ガバナー宅に荷物を下ろすようにとの指令。ガバナーと話をしてくれていたらしいのです。

塩竈まで行きたい気持ちはやまやまですが、確かにこの雪と時間では難しいと判断。阿部L.もずっと連絡を取り合っていたこの元ガバナー宅へ荷物を下ろすことを決意して元ガバナーに連絡、宮城ICで降りることにしました。

宮城ICから元ガバナー宅までは近く、９時を回った頃に到着すると、準備して待っていてくれた東北大学の教授や地元メンバーさんなどが早速荷下ろしにかかってくれました。

聞けば、翌朝にはメンバーで被災地に直接届けてくださるとのこと、頭がさがります。

荷物を下ろした後、すぐにお暇しようと思いましたが、「コーヒーを一杯」とのお言葉に甘え、ごちそうに。

元ガバナーの奥様も、お子様たちもライオンズのメンバーで、ご家族で活動をしていらっしゃるとのこと、頼もしくすばらしいと思います！しばらくライオンズ談義に花が咲きました。

帰り際には、大きなおにぎりとみかんをいただき、恐縮いたしました。とってもおいしかったです！

阿部L.は仙台出身なのですが、雪のため実家に寄ることもかなわず、早々に仙台を後にすることになりました。

帰り道は宮城IC付近で行きにも勝る大雪。交通量が少ないこともあるのか、あっという間に路面がシャーベット状に。すぐに除雪車が出てきたので助かりました。

帰りは急ぐ必要もなく、やはり雪と段差の道をゆっくり東京まで無事に戻りました。

帰着は午前４時過ぎ。元ガバナー宅にいた１時間を引いて約１２時間のドライブでした。

＜阿部かな子　コメント＞

１時間の間元ガバナーと話したのは、これからの復興のこと。話すうちに、今は物資が必要ですが、長期にわたることが予想される復興支援には、やがて募金が必要になると思いました。復興には大勢の力が必要で、その人たちが動くためにはどうしてもいろいろな出費がかさみます。地元にいて判断できる人、団体が、必要なところに効果的に投入できる資金がある程度まとまった金額必要だと思います。

もちろん物資もまだまだ必要です。今現在も支援物資を集めています。流通が復活しつつあるので、次回は宅配等で送れるかもしれませんが、必要であればまたトラックで運びます。

今回は緊急だったので、理事会、例会を待たずに行動した部分がありましたことをお詫びいたします。クラブメンバーの気持ちが、少しでも被災地でご苦労されている方々の元に届いて、お役に立ったとしたら、これにまさる喜びはありません。

ご協力いただいた方々には、心より御礼申し上げます。